

地 域 経 済 動 向

令和2年3月9日



内閣府政策統括官
(経済財政分析担当)

目 次

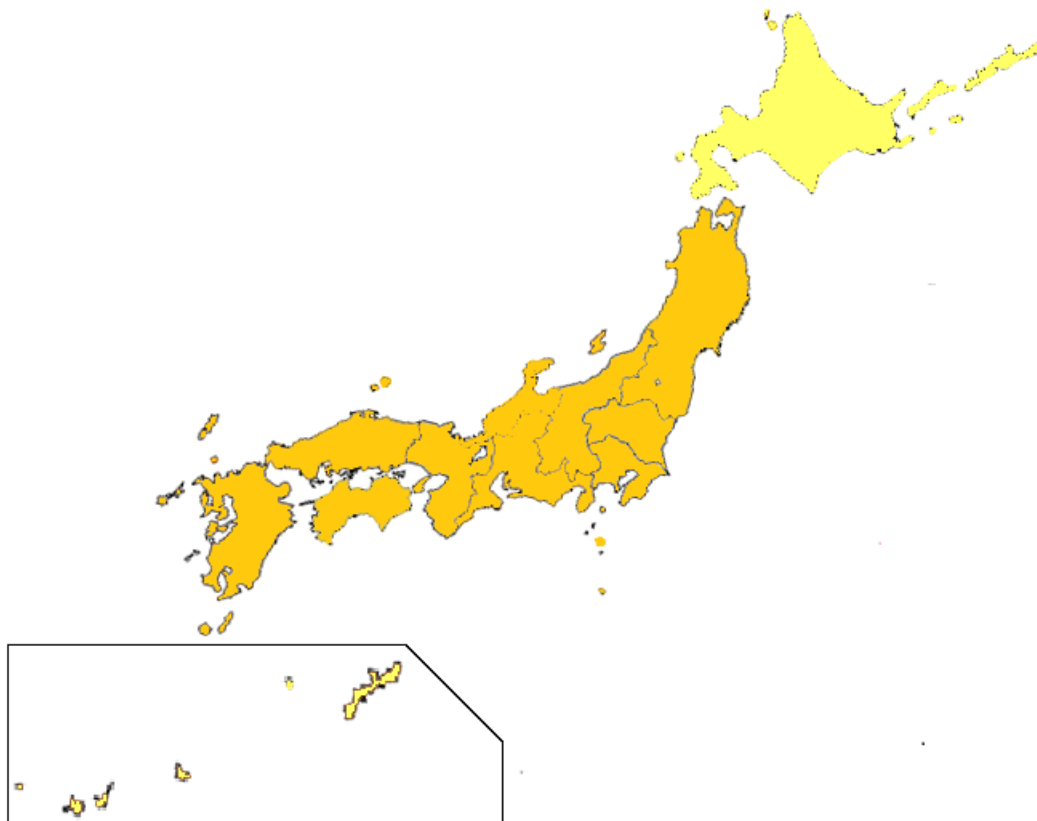
- 1 概況
- 2 分野別の動き
- 3 地域別の動向
 - (1) 北海道
 - (2) 東北
 - (3) 北関東
 - (4) 南関東
 - (5) 甲信越
 - (6) 東海
 - (7) 北陸
 - (8) 近畿
 - (9) 中国
 - (10) 四国
 - (11) 九州
 - (12) 沖縄
 - (13) 景気ウォッチャー調査(2020年2月調査)
景気判断理由の概要
- 4 主要指標
- 5 参考資料

1 概況

(1) 各地域の景況判断

地域別の景況判断（景気の変化方向）は以下のとおり。

- ・北海道地域は、足もとでは、新型コロナウイルス感染症の影響により、景況感が急速に厳しい状況になるなど、弱い動きがみられる。
- ・東北地域は、足もとでは、新型コロナウイルス感染症の影響により、景況感が急速に厳しい状況になるなど、弱さがみられる。
- ・北関東地域は、足もとでは、新型コロナウイルス感染症の影響により、景況感が急速に厳しい状況になるなど、弱さがみられる。
- ・南関東地域は、足もとでは、新型コロナウイルス感染症の影響により、景況感が急速に厳しい状況になるなど、弱さがみられる。
- ・甲信越地域は、足もとでは、新型コロナウイルス感染症の影響により、景況感が急速に厳しい状況になるなど、弱さがみられる。
- ・東海地域は、足もとでは、新型コロナウイルス感染症の影響により、景況感が急速に厳しい状況になるなど、弱さがみられる。
- ・北陸地域は、足もとでは、新型コロナウイルス感染症の影響により、景況感が急速に厳しい状況になるなど、弱さがみられる。
- ・近畿地域は、足もとでは、新型コロナウイルス感染症の影響により、景況感が急速に厳しい状況になるなど、弱さがみられる。
- ・中国地域は、足もとでは、新型コロナウイルス感染症の影響により、景況感が急速に厳しい状況になるなど、弱さがみられる。
- ・四国地域は、足もとでは、新型コロナウイルス感染症の影響により、景況感が急速に厳しい状況になるなど、弱さがみられる。
- ・九州地域は、足もとでは、新型コロナウイルス感染症の影響により、景況感が急速に厳しい状況になるなど、弱さがみられる。
- ・沖縄地域は、足もとでは、新型コロナウイルス感染症の影響により、景況感が急速に厳しい状況になるなど、弱い動きがみられる。



- ・足もとでは、新型コロナウイルス感染症の影響により、景況感が急速に厳しい状況になるなど、弱さがみられる - 東北、北関東、南関東、甲信越、東海、北陸、近畿、中国、四国、九州
- ・足もとでは、新型コロナウイルス感染症の影響により、景況感が急速に厳しい状況になるなど、弱い動きがみられる - 北海道、沖縄

(注) 上図は、景気の変化方向の記述（緩やかに回復している、持ち直している等）に基づき、分類・色分けしている。

本報告書では、原則として下記の地域区分を採用している。ただし、下記地域区分によらない場合は備考にその旨を明記している。

地域名	都道府県名	
北海道	北海道	
東北	青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島	
関東	北関東	茨城、栃木、群馬
	南関東	埼玉、千葉、東京、神奈川
甲信越	新潟、山梨、長野	
東海	静岡、岐阜、愛知、三重	
北陸	富山、石川、福井	
近畿	滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山	
中国	鳥取、島根、岡山、広島、山口	
四国	徳島、香川、愛媛、高知	
九州	福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島	
沖縄	沖縄	

(2) 各地域の景況判断と主要変更点

		北海道	東 北	北関東	南関東	甲信越	東 海
景況判断	11月 (前回)	一部に弱さがみられるものの、緩やかな回復基調が続いている	弱さがみられるものの、緩やかな回復基調が続いている	一部に弱さがみられるものの、緩やかな回復基調が続いている	一部に弱さがみられるものの、緩やかな回復基調が続いている	一部に弱さがみられるものの、緩やかな回復基調が続いている	緩やかに回復している
	3月 (今回)	足もとでは、新型コロナウイルス感染症の影響により、景況感が急速に厳しい状況になるなど、弱い動きがみられる	足もとでは、新型コロナウイルス感染症の影響により、景況感が急速に厳しい状況になるなど、弱さがみられる	足もとでは、新型コロナウイルス感染症の影響により、景況感が急速に厳しい状況になるなど、弱さがみられる	足もとでは、新型コロナウイルス感染症の影響により、景況感が急速に厳しい状況になるなど、弱さがみられる	足もとでは、新型コロナウイルス感染症の影響により、景況感が急速に厳しい状況になるなど、弱さがみられる	足もとでは、新型コロナウイルス感染症の影響により、景況感が急速に厳しい状況になるなど、弱さがみられる
		↓	↓	↓	↓	↓	↓
鉱工業生産 (沖縄は観光)	11月	弱含んでいる	弱含んでいる	弱含んでいる	弱含んでいる	弱含んでいる	高水準で推移しているものの、弱さがみられる
	3月	新型コロナウイルス感染症による影響があり、一段と弱含んでいる	弱含んでおり、新型コロナウイルス感染症の影響もみられる	弱含んでおり、新型コロナウイルス感染症の影響もみられる	弱含んでおり、新型コロナウイルス感染症の影響もみられる	弱含んでおり、新型コロナウイルス感染症の影響もみられる	弱含んでおり、新型コロナウイルス感染症の影響もみられる
個人消費	11月	持ち直している	底堅く推移している	持ち直している	持ち直しの動きがみられる	持ち直している	緩やかに増加している
	3月	足もとでは、新型コロナウイルス感染症による影響があり、弱含んでいる	足もとでは、新型コロナウイルス感染症による影響があり、弱めの動きがみられる	足もとでは、新型コロナウイルス感染症による影響があり、弱めの動きがみられる	足もとでは、新型コロナウイルス感染症による影響があり、弱めの動きがみられる	足もとでは、新型コロナウイルス感染症による影響があり、弱めの動きがみられる	足もとでは、新型コロナウイルス感染症による影響があり、弱い動きがみられる
雇用情勢	11月	着実に改善している	改善している	改善している	改善している	改善している	改善している
	3月	改善している	改善している	改善している	改善している	改善している	改善している

(注) は上方に判断を変更、 は変更なし、 は下方に判断を変更。

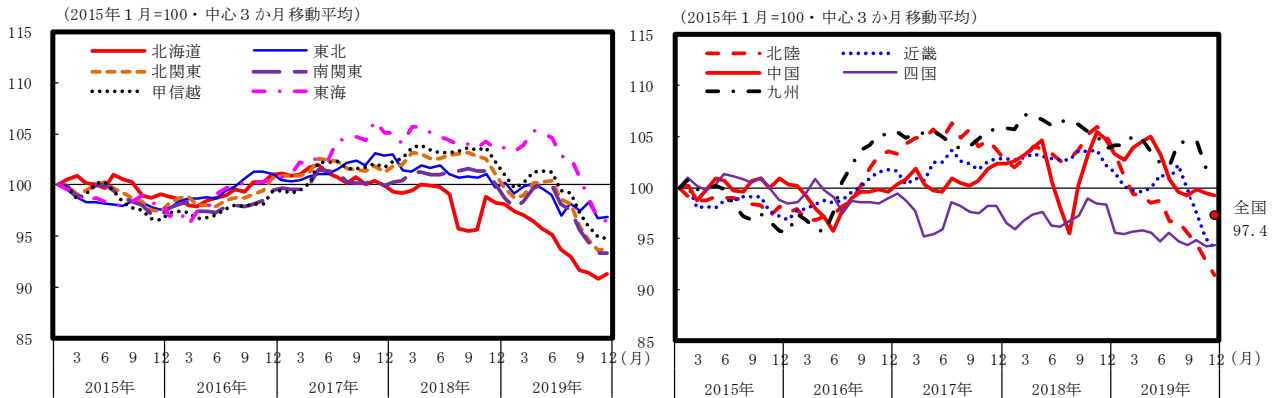
北 陸	近 畿	中 国	四 国	九 州	沖 縄
弱さがみられるものの、緩やかな回復基調が続いている	緩やかな回復基調が続いている	一部に弱さがみられるものの、緩やかな回復基調が続いている	一部に弱さがみられるものの、緩やかな回復基調が続いている	緩やかに回復している	着実に回復している
足もとでは、新型コロナウイルス感染症の影響により、景況感が急速に厳しい状況になるなど、弱さがみられる	足もとでは、新型コロナウイルス感染症の影響により、景況感が急速に厳しい状況になるなど、弱さがみられる	足もとでは、新型コロナウイルス感染症の影響により、景況感が急速に厳しい状況になるなど、弱さがみられる	足もとでは、新型コロナウイルス感染症の影響により、景況感が急速に厳しい状況になるなど、弱さがみられる	足もとでは、新型コロナウイルス感染症の影響により、景況感が急速に厳しい状況になるなど、弱さがみられる	足もとでは、新型コロナウイルス感染症の影響により、景況感が急速に厳しい状況になるなど、弱い動きがみられる
↓	↓	↓	↓	↓	↓
このところ減少している	持ち直しの動きがみられる	弱含んでいる	弱含んでいる	このところ緩やかに増加している	増加している
一段と弱含んでおり、新型コロナウイルス感染症の影響もみられる	弱含んでおり、新型コロナウイルス感染症の影響もみられる	弱含んでおり、新型コロナウイルス感染症の影響もみられる	弱含んでおり、新型コロナウイルス感染症の影響もみられる	弱含んでおり、新型コロナウイルス感染症の影響もみられる	新型コロナウイルス感染症による影響があり、一段と弱含んでいる
緩やかに増加している	持ち直している	持ち直しの動きがみられる	持ち直しの動きがみられる	緩やかに持ち直している	堅調に増加している
足もとでは、新型コロナウイルス感染症による影響があり、弱めの動きがみられる	足もとでは、新型コロナウイルス感染症による影響があり、弱い動きがみられる	足もとでは、新型コロナウイルス感染症による影響があり、弱めの動きがみられる	足もとでは、新型コロナウイルス感染症による影響があり、弱めの動きがみられる	足もとでは、新型コロナウイルス感染症による影響があり、弱い動きがみられる	足もとでは、新型コロナウイルス感染症による影響があり、弱含んでいる
改善している	改善している	改善している	改善している	改善している	着実に改善している
改善している	改善している	改善している	改善している	改善している	改善している

2 分野別の動き

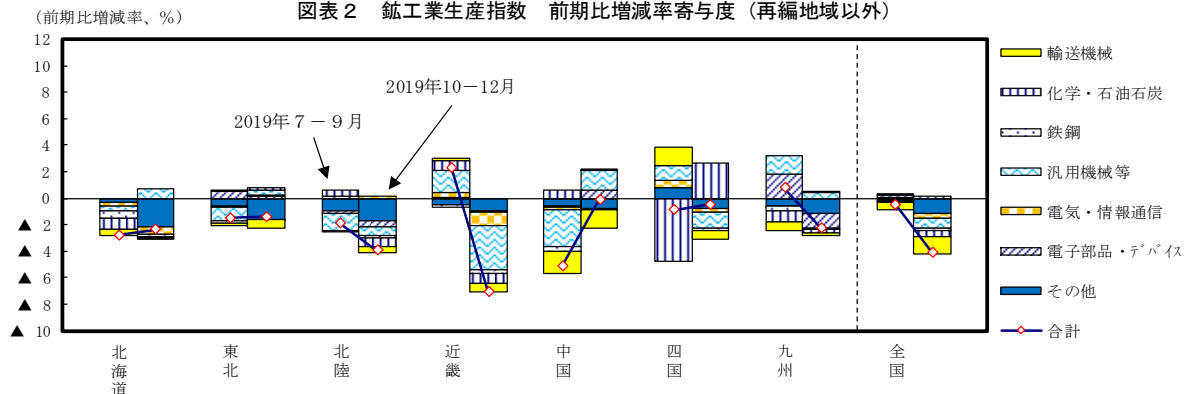
＜生産＞東北、北関東、南関東、甲信越、東海、近畿、中国、四国、九州は弱含んでおり、新型コロナウイルス感染症の影響もみられる、北陸は一段と弱含んでおり、新型コロナウイルス感染症の影響もみられる、北海道は新型コロナウイルス感染症による影響があり、一段と弱含んでいる。

○ 鉱工業生産（季節調整値）について、2019年10-12月期の動きをみると、近畿（前期比▲7.0）、東海（同▲5.9）など全ての地域でマイナスとなった。輸送機械（普通乗用車）や生産用機械（金属工作機械）の減少が低下に寄与した地域等がみられた（図表1～3）。

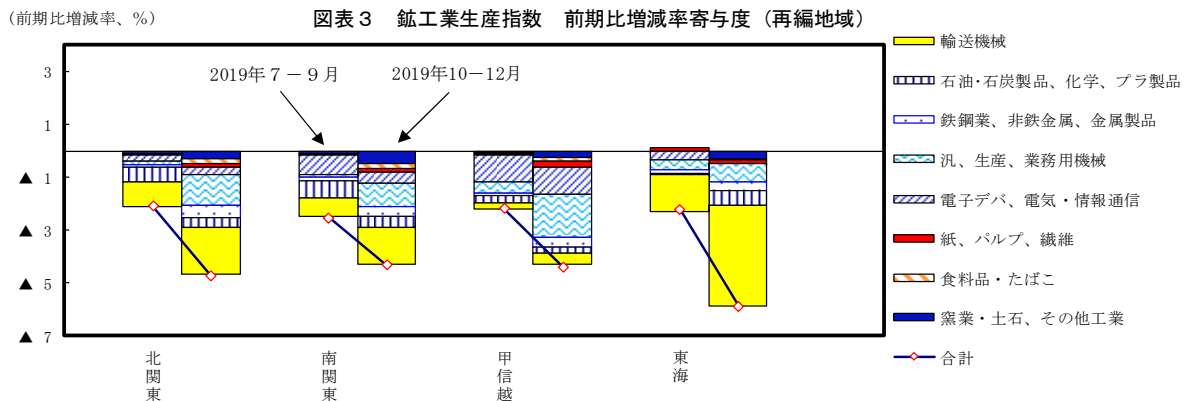
図表1 鉱工業生産指数（季節調整値）の推移



図表2 鉱工業生産指数 前期比増減率寄与度（再編地域以外）



図表3 鉱工業生産指数 前期比増減率寄与度（再編地域）



（備考）図表1、2、3：経済産業省、各経済産業局、中部経済産業局電力・ガス事業北陸支局「鉱工業生産動向」により作成。基準年は2015年。季節調整値。

北関東、南関東、甲信越は関東経済産業局、東海は関東経済産業局、中部経済産業局の「鉱工業指数の動向」により内閣府にて算出。

図表1：直近月は、2か月平均。

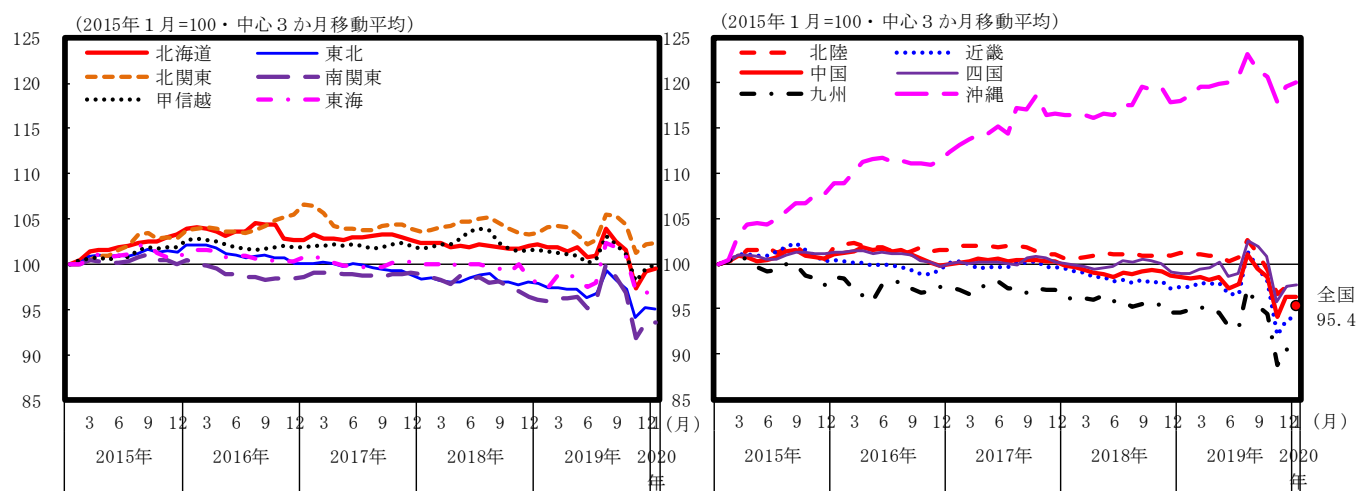
図表2：全国、東北、北陸、近畿の「汎用機械等」は生産用機械工業と汎用・業務用機械工業を足したものの。

北海道の「汎用機械等」は「一般機械」。全国、近畿、中国の「化学・石油石炭製品工業」は化学と石油・石炭製品を足したものの。全国、東北の「電気・情報通信工業」は電気機械と情報通信機械を足したものの。

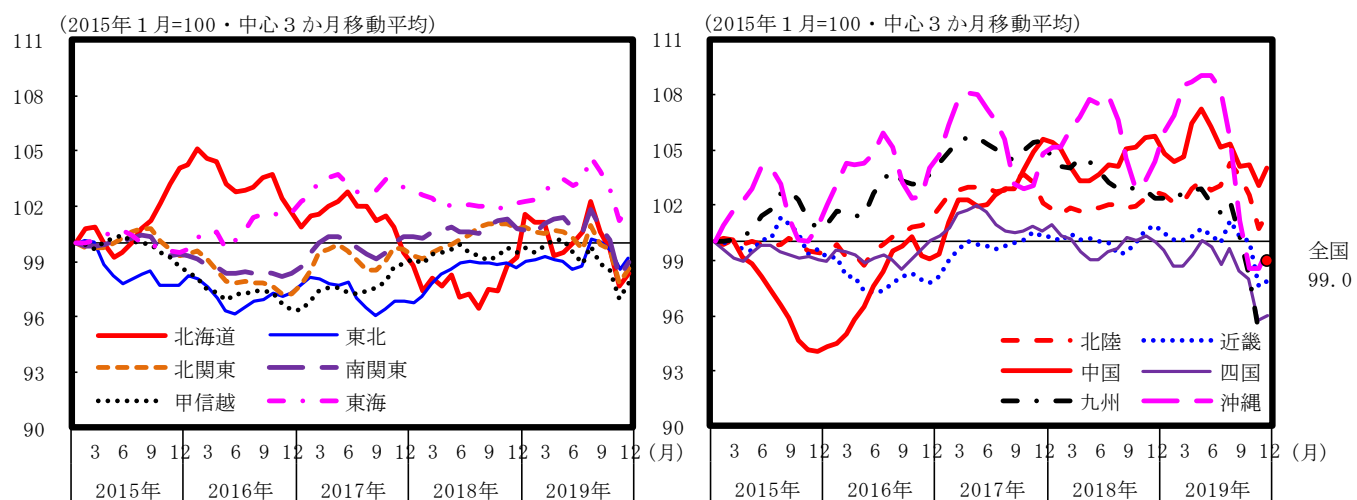
＜消費＞東北、北関東、甲信越、北陸、中国、四国は足もとでは、新型コロナウイルス感染症による影響があり、弱めの動き、南関東、東海、近畿、九州は足もとでは、新型コロナウイルス感染症による影響があり、弱い動き、北海道、沖縄は足もとでは、新型コロナウイルス感染症による影響があり、弱含んでいる。

- 消費について、2019年10-12月期の百貨店・スーパー販売額（実質・季節調整値）の動きをみると、北関東（前期比▲4.0）、沖縄（同▲4.4）等で全国（同▲7.4）を上回る一方、近畿（同▲9.3）、九州（同▲8.7）等は下回った。2020年1月は、四国（前月比1.8）、沖縄（同1.3）等で前月を上回り、東海（同▲6.6）、北陸（同▲2.2）等で前月を下回った（図表1）。
- 地域別消費総合指数（実質・季節調整値）においては、地域でばらつきがみられる（図表2）。

図表1 百貨店・スーパー販売額(実質・季節調整値)の推移



図表2 地域別消費総合指数(実質・季節調整値)の推移

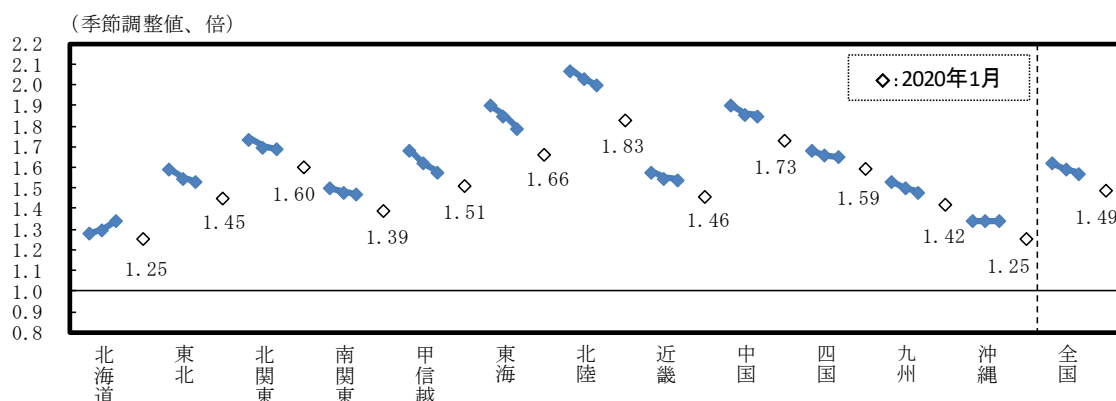


(備考) 図表1：経済産業省「商業動態統計」、総務省「消費者物価指数」により作成し、内閣府にて季節調整。
 北関東、南関東、甲信越、北陸の消費者物価指数は、総務省「消費者物価指数」の各都道府県の県庁所在都市別の消費者物価指数を、総務省「国勢調査」の二人以上世帯数を用いて加重平均し、内閣府にて作成。なお、消費者物価指数は、総合指数による。直近月は2か月平均。
 2020年1月は速報値。
 図表2：内閣府「地域別支出総合指数(RDEI)」により作成。季節調整値。

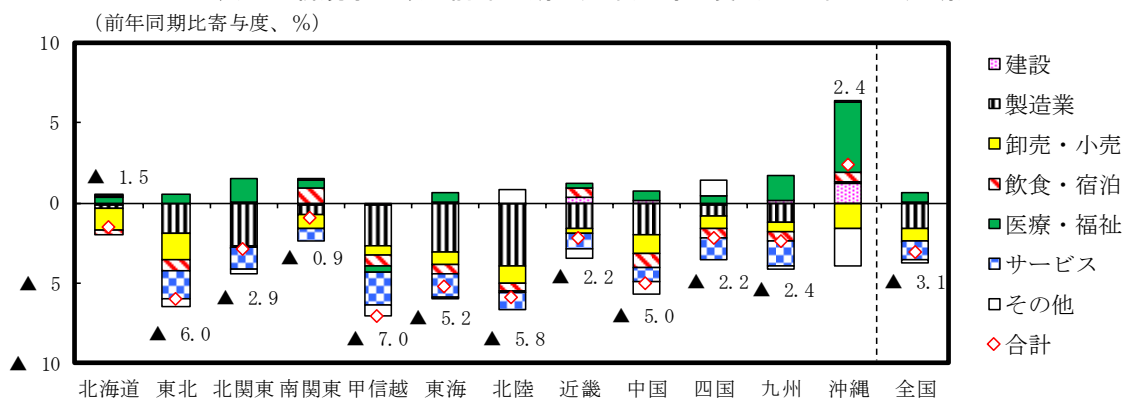
＜雇用＞雇用情勢は改善している。

- 雇用情勢について、2019年10-12月期の有効求人倍率（就業地別・季節調整値）をみると、東海（1.85→1.79）、甲信越（1.62→1.58）等は低下、沖縄は横ばい、北海道（1.30→1.34）は上昇した（図表1）。2020年1月の有効求人倍率は、全地域で低下した。
- 新規求人数について、地域別にみた業種別寄与度をみると、製造業は沖縄を除く全ての地域で減少した（図表2）。
- 失業率をみると、四国（前期差▲0.4）、北関東（同▲0.3）等で低下、近畿等で横ばい、北海道（同0.3）、東北（同0.3）等で上昇した（図表3）。

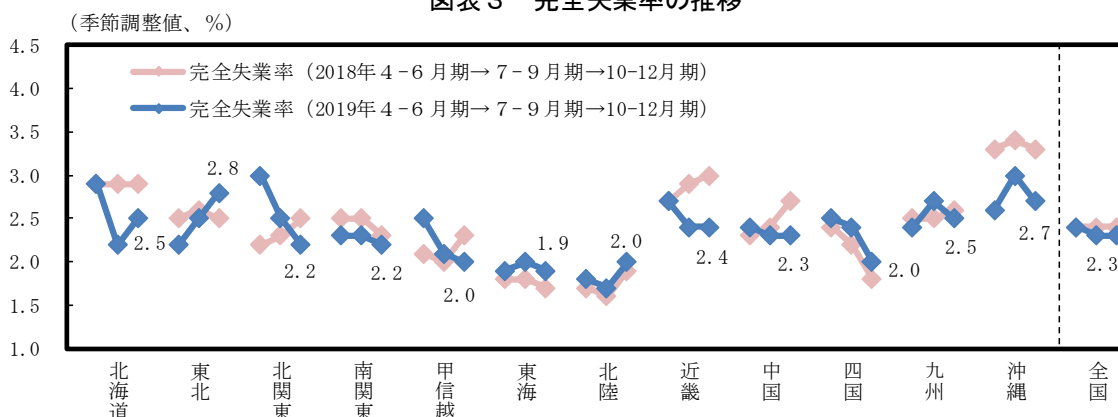
図表1 有効求人倍率（就業地別）（2019年4-6月期→7-9月期→10-12月期、2020年1月）



図表2 新規求人数の前年同期比産業別寄与度（2019年10-12月期）



図表3 完全失業率の推移



（備考）図表1：厚生労働省「一般職業紹介状況」により作成。

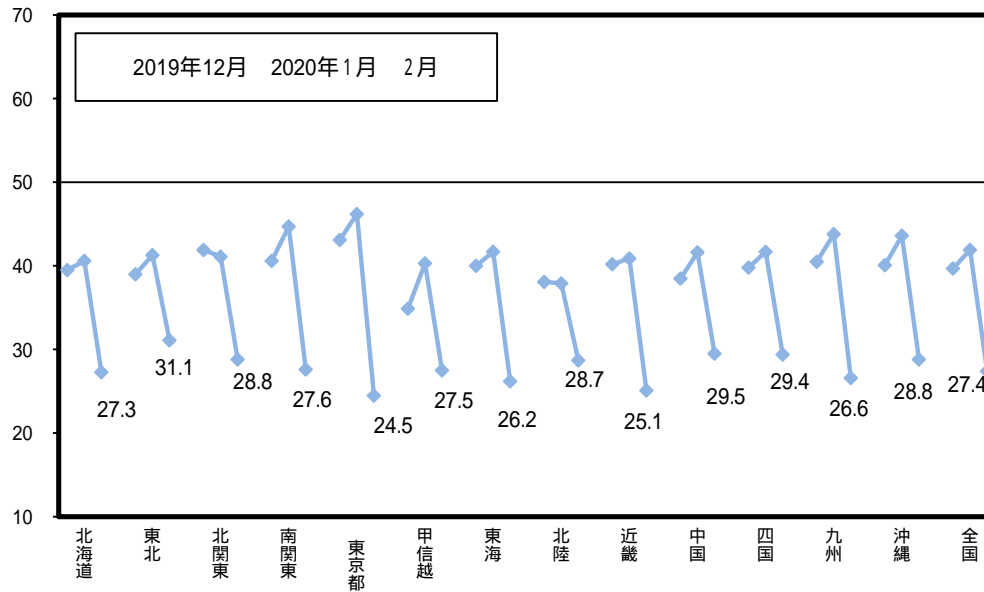
図表2：厚生労働省提供データにより作成（受理地別）。

図表3：総務省、沖縄県「労働力調査」により作成。季節調整値。北関東、甲信越、北陸は、「労働力調査」の都道府県別モデル推計から算出した労働力人口、完全失業者の県別シェアを同調査公表値に乘じることで県別の人数を計算し、内閣府にて作成。甲信越、北陸、九州は内閣府で季節調整。全国、沖縄の季節調整値は、内閣府にて月次値を四半期平均化。北関東、中国、四国は四半期系列に季節性が認められなかったことから原数値と同じ。

< 足もとの動き：景気ウォッチャー調査(2020年2月調査)各地域の動向 >

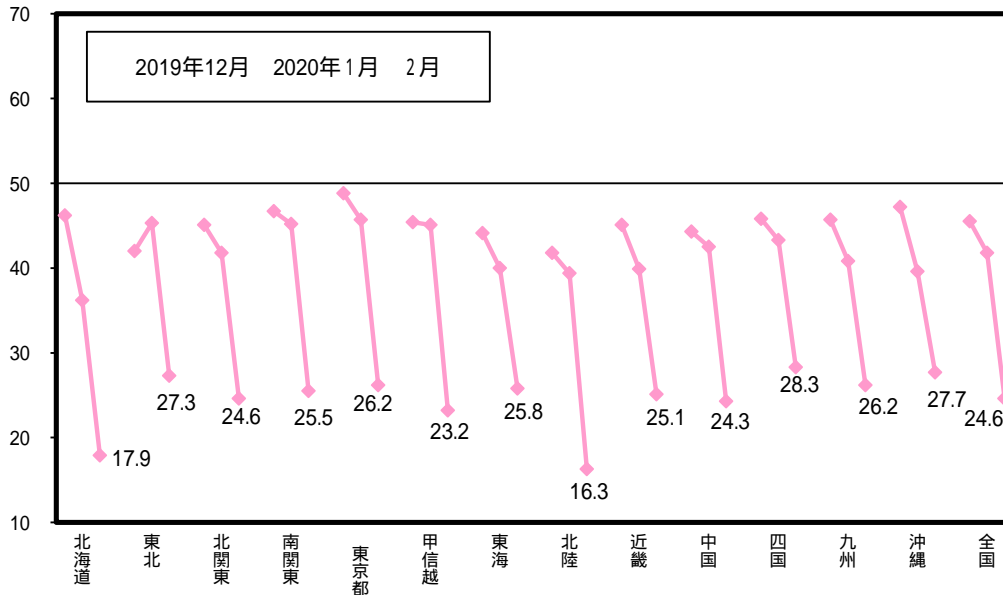
地域別DIの推移(現状)

(季節調整値)



地域別DIの推移(先行き)

(季節調整値)



(備考)内閣府「景気ウォッチャー調査」(2020年2月調査、調査期間：2月25日～29日)を基に作成。

景気の現状判断D I (季節調整値)

前月と比較しての現状判断D I (各分野計)は、全国 12 地域で低下した。最も低下幅が大きかったのは九州(17.2ポイント低下)で、最も低下幅が小さかったのは北陸(9.2ポイント低下)であった。

景気の現状判断D I (各分野計)(季節調整値)

(D I)	年 2019				2020		(前月差)	
	月	9	10	11	12	1		2
全国		46.6	36.9	38.8	39.7	41.9	27.4	(-14.5)
北海道		49.0	40.7	42.0	39.5	40.6	27.3	(-13.3)
東北		45.9	35.2	33.8	39.0	41.3	31.1	(-10.2)
関東		46.3	37.3	40.4	41.0	43.7	27.9	(-15.8)
北関東		44.6	35.4	39.1	41.9	41.1	28.8	(-12.3)
南関東		47.0	38.0	40.9	40.6	44.7	27.6	(-17.1)
東京都		49.5	40.3	42.4	43.1	46.2	24.5	(-21.7)
甲信越		42.5	35.0	35.3	34.9	40.3	27.5	(-12.8)
東海		46.1	38.0	40.7	40.0	41.7	26.2	(-15.5)
北陸		46.0	34.8	36.3	38.1	37.9	28.7	(-9.2)
近畿		50.0	40.4	40.4	40.2	40.9	25.1	(-15.8)
中国		44.7	37.3	38.8	38.5	41.6	29.5	(-12.1)
四国		45.6	34.7	39.2	39.8	41.7	29.4	(-12.3)
九州		44.5	36.2	39.4	40.5	43.8	26.6	(-17.2)
沖縄		44.6	40.1	44.0	40.1	43.6	28.8	(-14.8)

景気の先行き判断D I (季節調整値)

前月と比較しての先行き判断D I (各分野計)は、全国 12 地域で低下した。最も低下幅が大きかったのは北陸(23.1ポイント低下)で、最も低下幅が小さかったのは沖縄(11.9ポイント低下)であった。

景気の先行き判断D I (各分野計)(季節調整値)

(D I)	年 2019				2020		(前月差)	
	月	9	10	11	12	1		2
全国		37.8	44.3	45.9	45.5	41.8	24.6	(-17.2)
北海道		43.3	47.5	45.8	46.2	36.2	17.9	(-18.3)
東北		33.8	43.0	41.6	42.0	45.3	27.3	(-18.0)
関東		38.0	44.1	45.0	46.2	44.2	25.3	(-18.9)
北関東		37.9	41.5	43.0	45.1	41.8	24.6	(-17.2)
南関東		38.0	45.1	45.8	46.7	45.2	25.5	(-19.7)
東京都		39.4	46.8	46.9	48.8	45.7	26.2	(-19.5)
甲信越		36.4	38.5	44.0	45.4	45.1	23.2	(-21.9)
東海		37.1	42.5	46.6	44.1	40.0	25.8	(-14.2)
北陸		39.3	42.2	43.5	41.8	39.4	16.3	(-23.1)
近畿		38.6	45.4	45.8	45.1	39.9	25.1	(-14.8)
中国		38.3	42.9	44.9	44.3	42.5	24.3	(-18.2)
四国		38.3	44.3	46.1	45.8	43.3	28.3	(-15.0)
九州		37.2	45.1	47.2	45.7	40.8	26.2	(-14.6)
沖縄		42.4	47.2	52.0	47.2	39.6	27.7	(-11.9)